小川未明文学館　館報

vol.18

令和５年度 特別展

山福朱実原画・吉田延絵画展

—未明童話「砂漠の町とサフラン酒」など—

山福朱実「砂漠の町とサフラン酒」2005年　架空社

吉田延「月の明るく照らす晩に」1989年

小川未明文学館 館報　第18号
2024年(令和6)8月30日発行（年刊）

目　次

【寄稿】
河村　一美 氏
「小川未明に導いて下さった
6人の先生と父」　2
【報告】
文学館1年の記録（令和5年度）
・展覧会　4
・各種イベント・講座等　7
・その他関連事業　11
【小川未明文学賞】　13
【ボランティアネットワークだより】
「のばら」Vol.20　14
【文学館からのお知らせ】　16

小川未明文学館
新潟県上越市本城町8-30（高田図書館内）
TEL　025-523-1083
FAX　025-523-1086

小川未明に導いて下さった6人の先生と父

河村　一美 氏
（高田文化協会顧問）

昭和20年（1945）、敗戦の報とともに、1才にもならない私は母の背中にくくられて中国・牡丹江から舞鶴港に引き揚げ母の実家に来て、それから79才の今日まで高田に住んでいる。

戦後の混乱期はどこの家庭でも、筆舌に尽くせぬ出来事が押し寄せたであろう。私が小学校1年の時、両親は離婚した。東京に行った父は、残してきた娘を不憫に思ったのか、毎月小学館の○年生の雑誌と小川未明の童話を贈ってくれた。戦後でも、印刷関係の仕事に就いていた父には出版物など手に入ったのであろう。

私は学校から帰ってくると、縁側で青田川の流れる音を耳にして、一心に小川未明を読んだ。それが、小川未明を知るきっかけであった。来月は？　心待ちにするようになった。

5年たって、私は小学5年生、父は再婚しその頃から私への本のプレゼントは無くなった。

新潟大学高田分校附属小学校5年になった私に、小川未明を読んで下さる先生が現れた。矢島太郎先生は授業の前、お話の時間を設けて下さった。長身の矢島先生の声はクラス中に響き、父が送ってくれた未明童話集とは異なった感覚で、新しい未明と出会うことになる。それは目で活字を追っていた感覚ではなく、耳から入る未明に想像がふくらみ胸がいっぱいになる経験を毎朝、お話の時間でもさせていただいた。想像は知らない世界を教えてくれた。

附属中学・北城高校の通り過ぎる青春の日々は未明からも読書からも遠ざけた。そして結婚。末の子が5歳、35歳の時、杉みき子先生と出会い私は書くことを覚えた。昭和35年の頃である。「ブーシュ北村」というステキなお菓子屋さんが杉先生を選者として童話を募集した。三席に選ばれ、その歴史物語は、それから長く続く書く面白さを知った私の処女作であった。

それから私は杉先生の書かれた児童文学、小川未明に関するエッセイなど隈なく読み、児童文学や小説を書く世界にのめり込んで行った。60歳の時、高田文化協会の仕事をするようになった私は、杉先生に毎日のようにお会いする幸運に恵まれた。先生の日常に触れる喜びは格別なものであり、今もお宅にお邪魔し先生のお顔を拝する。杉先生のエッセイ「ばらこくたい」を同人誌「文芸たかだ」に企画し、それは長い連載となって、

誌面を飾った。

杉先生の「小川未明」についての文章も多く読み、小川未明と杉先生の類似・相違点など感慨深く読み、今もそれは続いている。

春日山神社宮司の小川清隆先生には、「文芸たかだ」に連載「親子雲」をお願いし、挿絵の濱口剛先生と春日山神社に行き、原稿を頂いた折、清隆先生、奥様ともども、お茶を入れて下さり、未明の思い出話に花が咲いた。未明からの手紙を障子戸の破れたところに貼った、などおおらかな清隆先生の一面を見る思いであった。

小川未明研究家・児童文化評論家の上笙一郎（かみしょういちろう）先生と出会い、未明についてのあれこれを伺ったのもいい思い出である。ある時は、十日町から飯山線で長野までの数時間、未明について一対一の勉強会をしていただき、またある時は人魚像を見ようと、タクシーを使いながら7つの人魚像を見てまわり人魚とは、を叩きこまれたことも今に役立っている。

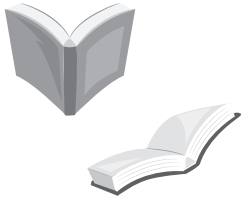
上先生から頂いたご著書ほか数冊の書物は宝である。

小川英晴先生には、拙作『昔、雁木の町を瞽女さんが歩いていた』の序文を図々しくもお願いし、嬉しいことに英晴先生は考えて悩んで、文章が枠からはみ出すくらいの序文を書いて下さった。英晴先生が企画され、毎年行われる「小川未明フェスティバル」では、未明にちなむフラメンコが英晴先生ならではの演出でいつも驚かされ、楽しませてくださる。亡き奥様を偲ばれる「愛の詩」の朗読も涙を誘うものであった。

上越教育大学教授の小埜裕二先生の「小川未明研究会」は人気の講座で、89回と回を重ねている。毎回、小埜先生の決して教え込む、という講義ではなく、理解を促すあたたかさは受講生を夢中にさせてくれるのである。

以前、「小川未明小説講座」も開かれ、年齢層がもう少し若かったように感じ、高田出身の未明をもっと知り、もっと理解を深めたい市民の為に小埜裕二先生の存在は大きく、ありがたいものである。小埜先生の、小川未明に対する熱意がわれわれ受講生にもつたわり、ますます未明に心を寄せるのである。

6人の先生と父は私を小川未明へと導いて下さった嬉しい存在である。まだまだ未明を知りたい、読みたい、愉しみたい…こんなことを願う昨今である。



文学館1年の記録

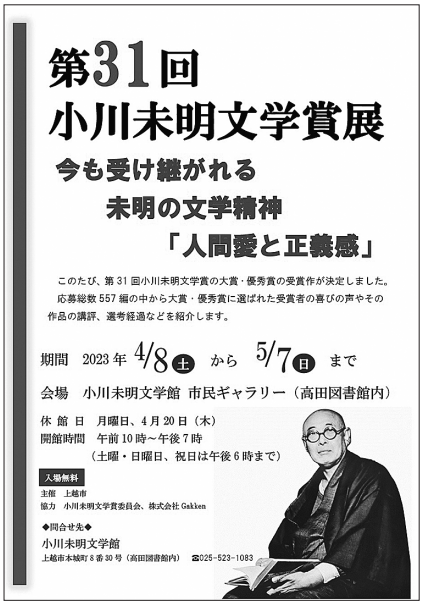
令和5年度（2023）は、25741人の方からご来館いただきました。

【展覧会】

特別展を2回、企画展を1回開催しました。

特別展〈第31回小川未明文学賞展〉

〈会期〉令和5年4月8日（土）～5月7日（日）25日間
〈会場〉小川未明文学館　市民ギャラリー
〈来場者数〉1568人



✍小川未明文学賞は、小川未明の文学精神である「人間愛と正義感」を受け継ぎ、新しい時代にふさわしい創作児童文学作品を輩出する目的で、平成3年（1991）に創設されました。

特別展では、第31回小川未明文学賞の応募作品557編の中から選ばれた、大賞・優秀賞の受賞者の声とその作品を紹介しました。

また、文学館で開催された贈呈式の様子、これまでの大賞受賞者とその作品、今回の最終選考まで残った作品の講評のほか、書籍化された第30回小川未明文学賞大賞受賞作品（2021年）、島村木綿子氏著『カステラアパートのざらめさん』の書籍表紙パネルや校正原稿（㈱Gakken提供）などを展示しました。

本展覧会を通じて、小川未明文学賞大賞を志す人が一人でも増えるとともに、未明の文学精神を受け継ぐ作品が数多く誕生することを願っています。

特別展
〈山福朱実原画・吉田延絵画展
―未明童話「砂漠の町とサフラン酒」など―〉

〈会期〉令和5年10月7日（土）
～12月24日（日）　64日間
〈会場〉小川未明文学館　市民ギャラリー
〈来場者数〉５１６３人

✍生涯にわたって約１２００編もの童話をつくり「日本近代童話の父」といわれた小川未明。その童話にインスピレーションを得た多くの画家たちによって、明治から令和の時代にかけて、未明童話はさまざまな形で表現されています。これらの作品によって、未明童話の情景や、未明が童話を通じて語りかけてくる心を、より強く感じることができます。

特別展では小川未明文学館で所蔵している作品の中から、山福朱実氏の「砂漠の町とサフラン酒」（多色刷り木版画・22点）、吉田延氏の「赤いろうそくと人魚」「金の輪」「月夜とめがね」「牛女」などの絵画９点と版画７点を展示し、未明童話の世界とその魅力を紹介しました。

●山福朱実氏

１９６３年、福岡県北九州生まれ。絵本に『ヤマネコ毛布』（復刻ドットコム）、『ぐるうんぐるん』（農文協）などがある。木版画での出版は本作がはじめてで、憧れと幻想、うらみと悲しみに満ちた「砂漠の町とサフラン酒」の世界を、美しく、そして妖しく描き出しました。

●吉田延氏

１９３０年、兵庫県神戸市生まれ。洋画家の伊藤継郎に師事。１９９０年頃から未明童話に惹かれて作品を制作。画家の精神の記憶が深く刻まれた、やさしくも悲しみと祈りにあふれた作品が特徴。１９９９年死去。

企画展〈小川未明お宝展〉

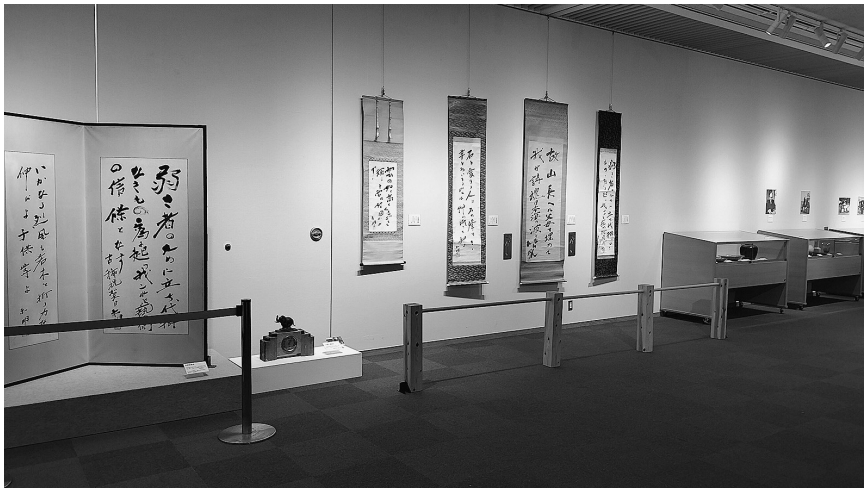
〈会期〉前期　令和6年1月25日（木）～3月6日（水）
後期　令和6年3月23日（土）～4月21日（日）　60日間
〈会場〉小川未明文学館　市民ギャラリー
〈来場者数〉5086人

✍小川未明文学館の所蔵品や、通常非公開の小川家寄託資料の中から、未明直筆の屏風や掛軸、自筆原稿などの貴重な資料をはじめ、未明の身の回り品や愛用品などを紹介しました。会期中は前期・後期で一部展示替えを行いました。

●主な展示資料

・小川未明筆古稀記念屏風（前期）
・小川未明筆扇面貼交屏風（後期）
・小川未明筆掛軸「雲のごとく」（前期）
・坪内逍遥筆掛軸「山椿の歌」（後期）
・小川未明自筆原稿「花の咲く前」（『お話の木』昭和12年5月発表）
・小川未明自筆原稿「相撲」（『お話の木』昭和12年6月発表）
・高円寺の未明自宅玄関に置かれていた壺
・『日本名作童話』（金の星社）出版記念として、執筆者一同から贈られた大理石の置時計
・未明夫婦の金婚式に際し、子どもたちから贈られた鉄瓶
・さいとうしずえ「月夜と眼鏡」原画12点
・高岡洋介「ものぐさじじいの来世」原画3点

ほか



【各種イベント・講座等】

未明生誕祭

〈日時〉令和5年3月26日（日）
午前10時～午後0時
〈会場〉未明生家跡地・町家交流館高田小町
〈主催〉小川未明研究会

✍小川未明は明治15年（1882）4月7日に生まれました。令和5年は未明生誕141年を迎えることから、上越市幸町の「未明生誕の地」碑前で未明ご令孫・詩人の小川英晴氏から祝辞をいただき、献花・献酒を行いました。その後、会場を町家交流館高田小町に移し、記念スピーチ・記念講演を行いました。

●第1部　生誕祭
開会：小埜裕二氏（小川未明研究会代表）、来賓祝辞：小川英晴氏（未明ご令孫・詩人）、詩碑・石塔案内：小埜裕二氏
●第2部　スピーチ・記念講演
スピーチ：横関レイ子氏（小川未明研究会）、浅井悠子氏（小川未明研究会）・高波昭子氏（未明ボランティアネットワーク）
記念講演：小川英晴氏

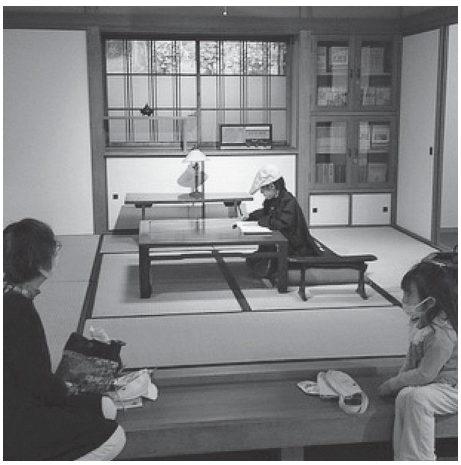
小川未明文学館こども祭

〈日時〉令和5年5月13日（土）
午前10時～午後4時
〈会場〉小川未明文学館　展示室ほか

✍子どもたちから未明童話や文学館に親しんでもらうため、「小川未明文学館こども祭」を開催しました。このイベントは平成29年度から実施しており、今回で7回目となります。

未明童話「五月の川の中」をテーマにした紙皿で作るこいのぼりや、「花とあかり」に出てくるちょうちょをイメージした工作、小川未明の似顔絵灯ろう作りなど、当日限定のオリジナル工作に、子どもたちは夢中になって取り組んでいました。

また、常設展示室内に隠された「めがね」を探すクイズや、未明のトレードマークであるハンチング帽に丸めがねを身に着け、羽織姿で未明になりきって写真撮影を行う「小川未明になりきろう」も人気でした。来場者数延べ172人。



朗読研修会

〈日時〉令和5年6月17日（土）、
6月24日（土）、7月1日（土）
時間は1、2回目が午後2時～4時、
3回目が午後2時～4時30分
〈会場〉高田城址公園オーレンプラザ　研修室

橘由貴氏（朗読療法士・ヴォイスアーティスト）を講師に、朗読研修会を開催しました。

はじめに基本的な声の作り方や表現力の磨き方、発声練習の大切さを学び、「聴き手の心に届く朗読をするには」という講義に耳を傾けました。次に発声練習や開口訓練を行い、その後、未明童話「月とあざらし」（大正14年）を題材にした実践的な朗読で、講師から個々に指導を受けました。また、講師の朗読を聴き、受講者のスキルアップの参考にしました。受講者数26人。

文学館講座

未明やその作品について学ぶ講座を3回開催しました。受講者数は延べ131人。

第1回文学館講座

〈講師〉石川桂子氏（竹久夢二美術館学芸員）
〈演題〉「竹久夢二と小川未明～紡がれる大正ロマンの美、二人の交流～」
〈日時〉令和5年10月21日（土）
午後2時～3時30分
〈会場〉小川未明文学館　市民ギャラリー

「大正ロマンの画家・竹久夢二～人生と芸術～」「夢二と未明」「竹久夢二美術館の活動」の3つのテーマでお話しいただきました。

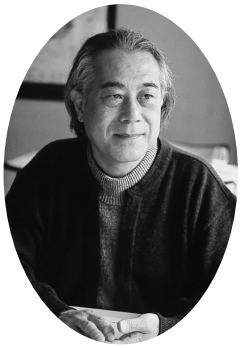
まず「大正ロマンの画家・竹久夢二～人生と芸術～」では、竹久夢二の49年間の生涯を、当時の暮らしぶりや影響を与えた人物との交流を中心に、各時代の夢二作品とともに紹介いただきました。さらに、夢二の恋愛と旅に焦点をあて、夢二に影響を与えた3人の女性とのエピソードや晩年の外遊についてお話しいただいたほか、夢二の画風について「美人画」「子ども向けのイラスト」を例に挙げながら説明いただきました。

次に「夢二と未明」では、二人の交流や、夢二が未明童話の表紙や挿絵を描いた作品について、詳しく解説していただきました。

「竹久夢二美術館の活動」では、竹久夢二美術館の成り立ちや近年の展覧会の開催状況などのほか、大手企業との商品企画などの先進的な取組についてお話しいただきました。受講者35人。

第2回文学館講座

〈講師〉矢崎節夫氏（金子みすゞ記念館館長）
〈演題〉「金子みすゞのうれしいまなざし
―みんなちがって、みんないい。―」
〈日時〉令和5年10月28日（土）
午後2時～3時30分
〈会場〉上越市市民プラザ　第3会議室



はじめに金子みすゞが詩を書く際に大切にしていた視点についてお話しいただきました。みすゞは「私とあなた」ではなく、「あなたと私」という視点で詩を書いています。なぜなら、「私」が先にきてしまうと「私」の視点となり、独りよがりになってしまうため、「あなたと私」という視点で作品を作り上げるのだと説明いただきました。

また、みすゞの代表作「大漁」「こだまでしょうか」「さびしいとき」「土」「私と小鳥と鈴と」「星とたんぽぽ」「積もった雪」「風」の8編を取り上げ、それぞれの詩に対するみすゞの想いや矢崎先生の考察、詩に関連した実体験などをお話しいただきました。特に「こだまでしょうか」では、この詩が人びとに広く知られるきっかけとなった東日本大震災のエピソードを紹介いただきました。また、「積もった雪」では、「中の雪」の視点からも詩を詠んだ、みすゞの独特な感性について説明いただきました。

最後に金子みすゞ記念館における顕彰活動の様子についても館長のお立場から紹介いただきました。受講者数65人。

第3回文学館講座

〈講師〉小埜裕二氏（上越教育大学教授・小川未明文学館専門指導員）
〈演題〉「小川未明と宮沢賢治の接点」
〈日時〉令和5年11月18日（土）
午後2時～3時30分
〈会場〉町家交流館高田小町　多目的ホール

小川未明と宮沢賢治について、「歩く電信柱」「大正10年の転機」「賢治に接近する未明」「未明に接近する賢治」「賢治追悼童話」の5つのテーマで、それぞれの生い立ちや歩んだ人生、作品の比較を交えて紹介いただきました。

「大正10年の転機」では、法華経の精神を童話で表すことを使命とした賢治と、相互扶助の精神を童話で復活させることを使命とした未明の考え方の相違点と類似点について、賢治「鹿踊りのはじまり」と未明「黒い人と赤い橇（そり）」を読み解きながら、詳しく説明いただきました。

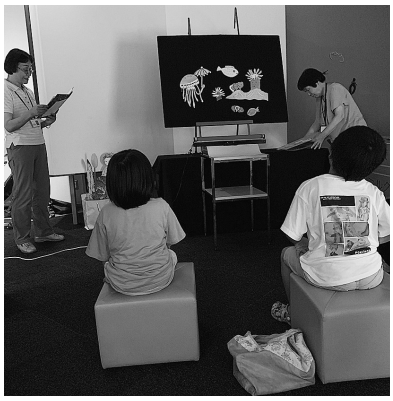
また、未明と賢治の童話を比較し、自分のことを棚に上げることで社会の姿を俯瞰的に捉え

た未明と、自分のことを棚に上げることができない生き物の宿命を見据えた賢治との作風の違い、未明童話から学ぶものは「不条理なものと戦う姿勢」であり、賢治の童話から学ぶものは「赦(ゆる)しや祈りの姿勢」であることなどをお話しいただきました。受講者31人。

文学館おはなし会

〈日時〉毎月第2・4日曜日　午後2時～
〈会場〉小川未明文学館ビッグブックシアター

✍未明童話の魅力を伝えるため、未明ボランティアネットワークの協力により、未明童話を中心としたおはなし会を23回開催しました。参加者数延べ214人。



出張おはなし会

✍未明童話に出会う機会をより多くの子どもたちに提供するため、未明ボランティアネットワークの協力により、市内の小学校や放課後児童クラブに出向いて、おはなし会を開催しました。

令和5年度は、市内小学校8校（309人）、放課後児童クラブ13か所（369人）を訪問しました。

未明童話のぬり絵

✍小川未明文学館の「出会いのロビー」では、いつでも数種類の未明童話のぬり絵をご用意しています。小さなお子さんから、高校生・大人まで、大勢の方からお楽しみいただいています。完成したぬり絵は、ロビー掲示板に展示しています。

こどもプログラム　未明童話と親しもう
―こどもたちに届けたい未明のメッセージ―

✍未明童話といえば「赤い蝋燭と人魚」や「月夜と眼鏡」、「野薔薇」などが有名ですが、このほかにも素晴らしい童話が数多くあります。これらの童話を子どもたちに紹介するために、月替わりで未明童話1作品を冊子にして無償配布しました。

配布作品は、幼児から小学校の低中学年向けの童話を中心にしています。参加者には「おはなしカード」を配布し、集めたシール数に応じて、文学館オリジナルグッズをプレゼントしました。延べ707冊の冊子を配布しました。

●配布童話

・4月「春はおかあさんです」（初出「春ハ、オ母サンデス」『コドモノクニ』昭和10年4月）
・5月「五月の川の中」（初出「五月ノ川ノ中」『コドモノクニ』昭和9年5月）
・6月「武ちゃんと蟹」（初出「武チャント蟹」『コドモノクニ』昭和8年8月）
・7月「くらげのおばさん」（初出「クラゲノヲバサン」『スキート』昭和9年7月）
・8月「山のはなし」（初出「山の話」『コドモアサヒ』昭和9年8月臨時）
・9月「秋の野」（初出「秋ノ野」『コドモアサヒ』昭和8年9月）
・10月「お月様と虫たち」（初出「オ月サマト虫タチ」『コドモノクニ』昭和7年10月）
・11月「寒くなる前の話」（初出『コドモノクニ』昭和6年11月）
・12月「花と人間」（初出『人類愛善新聞』昭和8年12月中旬、下旬号）
・1月「なんでもはいります」（初出「ナンデモハイリマス」『コドモノクニ』昭和7年1月）
・2月「風の子とおひなさま」（初出「風ノ子トオ雛様」『コドモノクニ』昭和9年3月）
・3月「星の降る夜」（初出『せうがく三年生』昭和14年2月）

くらげのおばさん

小川未明

「日本近代童話の父」
小川未明　（1882年～1961年）

1200編もの童話を書いた人

小川未明は、いまから140年前に、上越市高田で生まれました。未明のお父さんが上杉謙信をまつる春日山神社を作ったので、未明も春日山に住みました。そのあと東京に行って勉強し、お話を書く人になりました。その数は、子どもたちに向けたお話だけでも1200編になります。

未明とお父さん

お話のもとは子どものころの思い出

子どものころの未明は、ふるさとの自然に心をうごかされ、詩を書いていました。大人になって書いたお話の中には、自然がたくさん出てきます。暗く冷たい北の海が舞台の「寒いろうそくと人魚」、おだやかな月の晩のお話「月夜とめがね」などが有名です。

未明とお母さん

小川未明文学館 こどもプログラム
未明童話と親しもう
―こどもたちへ届けたい未明のメッセージ―
令和5年7月号
小川未明文学館
住所：上越市本城町 8-90（高田図書館内）
TEL：025-523-1083／FAX：025-523-1086

【その他関連事業】
「日本近代童話の父 小川未明顕彰会」事業
詩人・小川英晴氏（未明ご令孫）と巡る未明ゆかりの地モニターツアー

〈日時〉令和5年11月12日（日）
午前10時～午後4時
〈主な立ち寄り先〉
小川未明文学館、未明生誕の地、長養館（昼食）、春日山神社、レストランエリス（旧師団長官舎・喫茶）

✍小川英晴氏（未明ご令孫）と小埜裕二氏（上越教育大学教授・小川未明文学館専門指導員）を講師に迎え、上越市内の未明ゆかりの地を巡るバスツアーを開催しました。

まず、小川未明文学館で小埜教授から未明の生い立ちや作品についてのお話しをいただいた後、未明生誕の地である上越市幸町に移動し、幼少期ゆかりの場所を散策しました。

春日山神社では、風間宮司から非公開の未明資料を閲覧させてもらうとともに、境内の未明詩碑「雲のごとく」や春日山神社記念館をご案内いただきました。

また、レストランエリス（旧師団長官舎）では、未明童話「飴チョコの天使」にちなんだオ

リジナルスイーツと珈琲を味わいながら、小川英晴氏から未明の思い出などをお話しいただきました。参加者数35人。

「日本近代童話の父 小川未明顕彰会」合同イベント
〈未明童話の世界を感じよう〉

〈日時〉令和5年11月26日（日）
午後0時30分～4時30分
〈会場〉上越文化会館　市民サロン・ロビー

✍「小川未明フェスティバル2023」（上越文化会館主催）の開催にあわせて、「日本近代童話の父　小川未明顕彰会」構成団体による合同イベントを行いました。

当館では、「出張小川未明文学館」として、未明紹介パネルとフェスティバルのテーマである「月とあざらし」の解説パネルの展示、書籍化された過去の小川未明文学賞受賞作品の読書コーナーを開設しました。

また、小川未明研究会によるクリアファイルやTシャツなど未明オリジナルグッズの限定販売が行われました。

未明ボランティアネットワークは、「月とあざらし」のパネルシアターを2回上映したほか、未明童話の手作り小冊子を配布しました。

高田文化協会では、刊行誌『文芸たかだ』に掲載された市内高等学校美術部の皆さんが描いた表紙絵と、関係者が未明について記した「小川未明の思い出」を小冊子にして、来場者に配布しました。

小川未明文学賞

小川未明文学賞は、「日本近代童話の父」といわれる上越市出身の小川未明の文学精神「人間愛と正義感」を次代に継承するため、平成３年（１９９１）に創設されました。子どもたちの心に夢と希望を育むような鮮烈な児童文学作品を募集しています。

令和５年度で第32回を迎え、これまでに延べ１５７００編を超える作品が国内外から寄せられました。

大賞作品は単行本で刊行され、多くの子どもたちに読まれています。

第32回小川未明文学賞大賞受賞

古都 こいと さん

大賞作品「如月さんちの今日のツボ」

本作を書いていたときのことを思い出すうちに、頭の中に大きな岩が浮かんできました。その岩には、文章が思うように書けなかったときの苦しみや、完成しない恐怖、読者を傷つけるような台詞や文章になってはいないかという不安など、多くの悩みが刻まれていました。しかし、その岩を一つ一つ丁寧にどかしていくと、最後には「楽しかった」という言葉が刻まれた岩が見つかりました。その瞬間、「私はこの作品を書くことが楽しかったのだ。幸せだったのだ」と確信し、岩は溶けて光に変わりました。

「如月さんちの今日のツボ」の主人公、青葉の日常もまた、光ではなく岩に囲まれています。その岩を変えてくれたのは、壮大な出来事でも、ヒーローでもなく、家族のさりげない一言や、ささやかな出会い、そして「ツボ」です。本作が読者の皆さんの心に暖かな光を灯すことを願っています。最後に、この度は小川未明文学賞という名誉ある賞を授与していただき、心から感謝申し上げます。

第33回募集要項

◆募集作品

①短編部門（小学校低学年向け）
…400字詰め原稿用紙20枚～30枚

②長編部門（小学校中学年以上向け）
…400字詰め原稿用紙60枚～120枚

・いずれも小学生を読者対象とした創作児童文学で未発表の作品。各部門同時応募も可。

・パソコン等で原稿を作成する場合は、Ａ４用紙を横長に使用。原稿は縦書きで作成。

・表紙に題名、筆名、本名、年齢、職業、性別、郵便番号、住所、電話番号、400字詰め原稿用紙換算枚数を明記。

・生成系ＡＩのみで作成した作品は応募不可

・原稿用紙２枚程度のあらすじを表紙下に綴じる。

◆応募資格

不問

◆応募方法

上越市文化振興課へ郵送または持参、メール

◆締切

２０２４年10月31日（木）（当日消印有効）

◆入選作

・大　賞（賞金100万円・記念品）

・優秀賞（賞金20万円・記念品）

＊詳細は小川未明文学館ホームページをご覧いただくか、左記にお問い合わせください。

応募・お問い合わせ先

〒943-8601 新潟県上越市木田１－１－３
上越市文化振興課
「小川未明文学賞係」
（「」部分は朱書き）

出張おはなし会

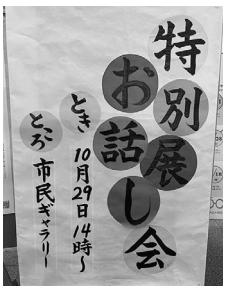
お話の会うさぎ　８月１日　安塚放課後児童クラブ
【ある男と牛の話】

暑い夏の日、重い荷物を牛にひかせて仕事に出かけた男。自分は酒を飲んでも牛には好物のあんころもちを食べさせず、とうとう牛にけとばされてしまう。かわいそうな牛ではあるが、何となくユーモア感じる男の姿に、子ども達も笑顔できいていました。

グループ空　６月30日　大潟町小学校
【赤いろうそくと人魚】

大潟町小への出張おはなし会では、地域内にある人魚像にちなんだ「赤いろうそくと人魚」や「真心の届いた話」などを演じました。地区の町内会長さんからは、地域全体のとりくみとして、作品に関連するエピソードが披露され、児童は未明をより身近に感じられる機会となりました。

特別展おはなし会　10月29日（日）

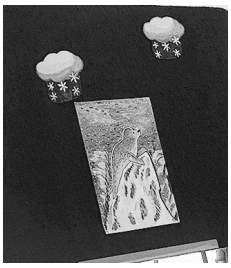


未明童話の会【金魚売り】

作品名	担当グループ
①「ひすいの玉」	…お話の会うさぎ
②「月とあざらし」	…シャーフの会
③「島の暮れ方の話」	…グループ空
④「金魚売り」	…未明童話の会

今年度の特別展は１週間早く実施しました。
うさぎ・空・未明・シャーフ各グループとも自作したものを使い朗読しました。コロナが終息し、落ち着いた環境でおはなし会をすることができましたが、子ども達が少なかったのが残念でした。

未明フェスティバルでの活動　11月26日（日）



シャーフ【月とあざらし】

市民サロンにおいて、パネルシアターで楽しんでもらいました。ライアーという幻想的な音色の楽器と合わせ、朗読しました。

未明作品を小冊子にして配布

折り紙を使っての表紙は好評で来場者に関心を持ってもらえ、作品を紹介しながら交流もできました。
「身近なお話がたくさんあるのですね」「孫たちと一緒に読んでみたいと思います」などの感想をいただきました。

出張おはなし会、会員加入の連絡先
上越市文化振興課　上越市木田１-１-３／電話 025-520-5628／FAX 025-520-5853

のばら

未明ボランティアネットワークだより

vol.20

発　行：未明ボランティアネットワーク
発行日：2024年８月30日

2023年度の活動

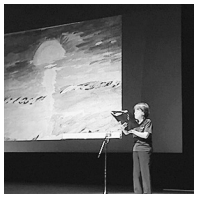
- 小川未明文学館おはなし会…全23回、延べ参加者214人
- 出張おはなし会（市内小学校、放課後児童クラブ）
- 特別展おはなし会（文学館市民ギャラリー）…参加者14人
- 会員の研修会（糸魚川市相馬御風生誕140年記念事業参加）

研修会　８月11日（金･祝）糸魚川市相馬御風生誕140年・春よ来い100年記念事業に参加

御風生誕140年・春よ来い100年記念イベント「石塚勇　朗読アワー」に参加して

小川未明と相馬御風は高田中学・早稲田大学時代と同級で、その友情は晩年まで続きました。その縁で糸魚川市より朗読を依頼されました。

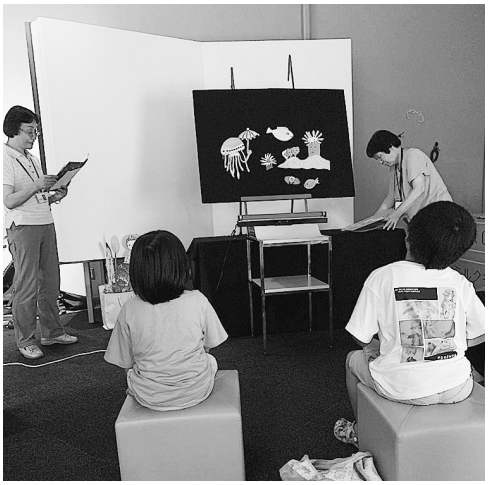
石塚勇さんの超低音の歌や朗読と一緒に、私達は未明の「ひすいの玉」「青い玉と銀色のふえ」を朗読しました。糸魚川市市民会館の大舞台での大きな経験でした。



文学館おはなし会　毎月第２・第４日曜日 14時～

お話の会うさぎ　４月23日【赤い魚と子供】

花びらを食べて体が赤くなった魚の子どもと、そんな魚を捕まえる人間の子ども。そして、子ども達を見守る魚と人間の母親の姿。それぞれの母子の会話に心がホッコリと温かくなるおはなしです。



グループ空　７月23日【クラゲのおばさん】

夏の海のおはなし「クラゲのおばさん」はブラックライトに美しく照らし出され、子どもの目をひいていました。パネルシアターでは「夏の晩方あった話」や「金魚とお月さま」なども上映し、映像ではなく、人の手で動かすキャラクターに目をみはっていました。

● お知らせ ●

小川未明関係資料の収集について ご協力のお願い

小川未明文学館では、未明に関係する文学資料の収集に努めています。下記の資料に関する情報をお持ちの方は、ご連絡くださいますようお願いします。資料の寄贈については、特定の場合（すでに複数点を所蔵している資料等）を除きお受けしますので、ご不明の点はお問合せいただけると幸いです。

【主な収集資料】

1　特別資料

小川未明原稿、書簡、遺品、その他自筆資料（短冊・書軸等）、写真（オリジナル）、小川未明関係者資料（未明書簡、献本など）

2　図書

未明作品集（未明生前・没後刊行図書）、全集・選集（未明作品を一部所収した資料も含む）、初出雑誌（未明作品掲載）、未明作品の外国語訳、絵本・紙芝居

3　参考資料

未明に関する研究論文、エッセイ、記事（雑誌・新聞等）

令和６年度　小川未明文学館カレンダー

４月	特別展「第32回小川未明文学賞展」 会期：4/27㊏～5/26㊐	
５月	小川未明文学館こども祭（春）	5/11㊏
5～7月	童話創作講座	5/26㊐、6/23㊐、7/28㊐
	第１回文学館講座	6/9㊐
	特集展示「新収蔵品展－令和5年度収集資料－」 会期：6/21㊎～12/18㊌	
	朗読研修会	6/15㊏、6/22㊏、7/6㊏
８月	第２回文学館講座	8/17㊏
10月	特別展「髙村木綿子が描く『赤いろうそくと人魚』絵本原画展」 会期：10/5㊏～12/15㊐	
	第３回文学館講座	10/27㊐
	小川未明文学館こども祭（秋）	10/27㊐
	特別展おはなし会	10/27㊐
	第33回小川未明文学賞募集締切	10/31㊍
12月	特集展示２　会期：12/20㊎～R7/3/11㊋	
３月	第33回小川未明文学賞贈呈式（上越）	

未明ボランティアネットワークによるおはなし会
＊毎月第2・4日曜日の午後2時から文学館にて実施
＊小学校等での出張おはなし会を随時実施

小川未明文学館　利用案内

◆開館時間
午前10時から午後６時

◆休館日
毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）・祝日の翌日・館内整理日（毎月第３木曜）・資料整理期間・年末年始（12／29～1／3）

◆入館料　無料

◆問合せ
〒943－0835
新潟県上越市本城町８－30（高田図書館内）
TEL　025－523－1083
FAX　025－523－1086
URL　http://www.city.joetsu.niigata.jp/site/mimei-bungakukan/

発行　上越市文化振興課
〒943-8601　新潟県上越市木田1-1-3／TEL. 025-520-5628／FAX. 025-520-5853